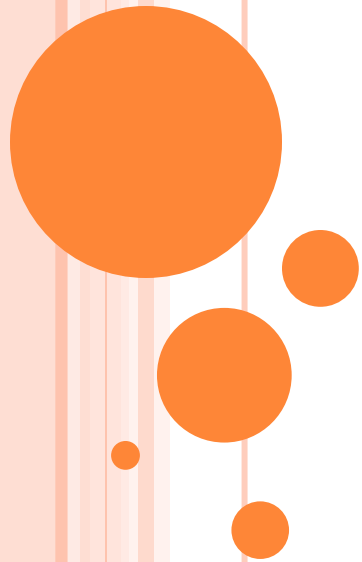
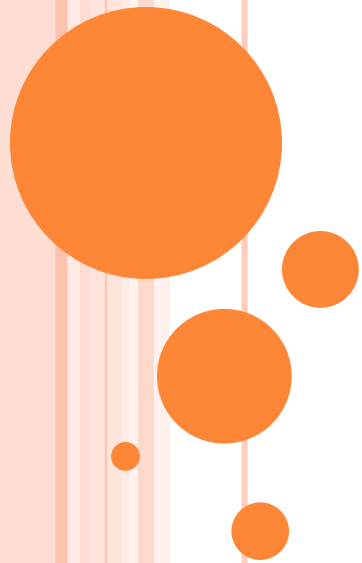


西洋保育思想の歴史

仙台青葉学院短期大学こども学科
小野瀬剛志



古代ギリシヤ・ローマの保育観



講義の目的

- 「子ども」や「保育」の見方がどのような歴史を経てきたのかを理解する。
- 現在の自分たちの「こども観」の歴史性を知り、それを深める。



* 大まかな西洋史の流れ

古代ギリシャ・ローマ

中世ヨーロッパ

ルネサンス

近代ヨーロッパ



世界(日本)

(1) 古代ギリシャの教育

- 教育＝閑(スコラー→school)のある少数の「自由民」のためのもの



時間がある＝労働してなくてよい(奴隷制)



(1) 古代ギリシャの教育

- 古代ギリシャの2つのポリス(都市国家)
 - ・ スパルタ

征服によるポリスの形成



教育：国家防衛のための人材養成

→ 国家主義的・鍛錬主義的教育

【スパルタ(式)教育】



(1) 古代ギリシャの教育

○ 古代ギリシャの2つのポリス(都市国家)

- ・アテネ

集住によるポリスの形成



教育:個人が理想的な人物になるため

→自由主義的・個人主義的教育

*理想=真・善・美



(2) アテネの教育思想

○ 真善美の追求

ソクラテス→プラトン→アリストテレス

* ソクラテス

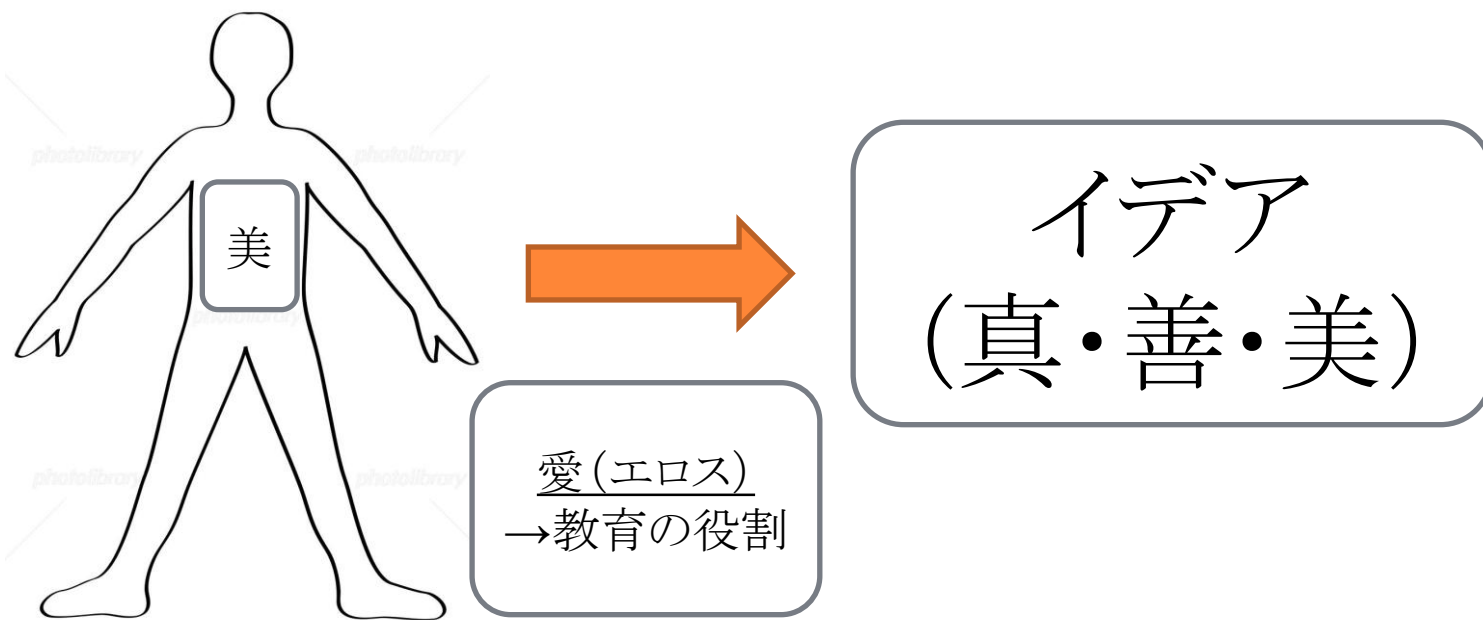
「無知の知」、「問答法」



(2) アテネの教育思想

○プラトン

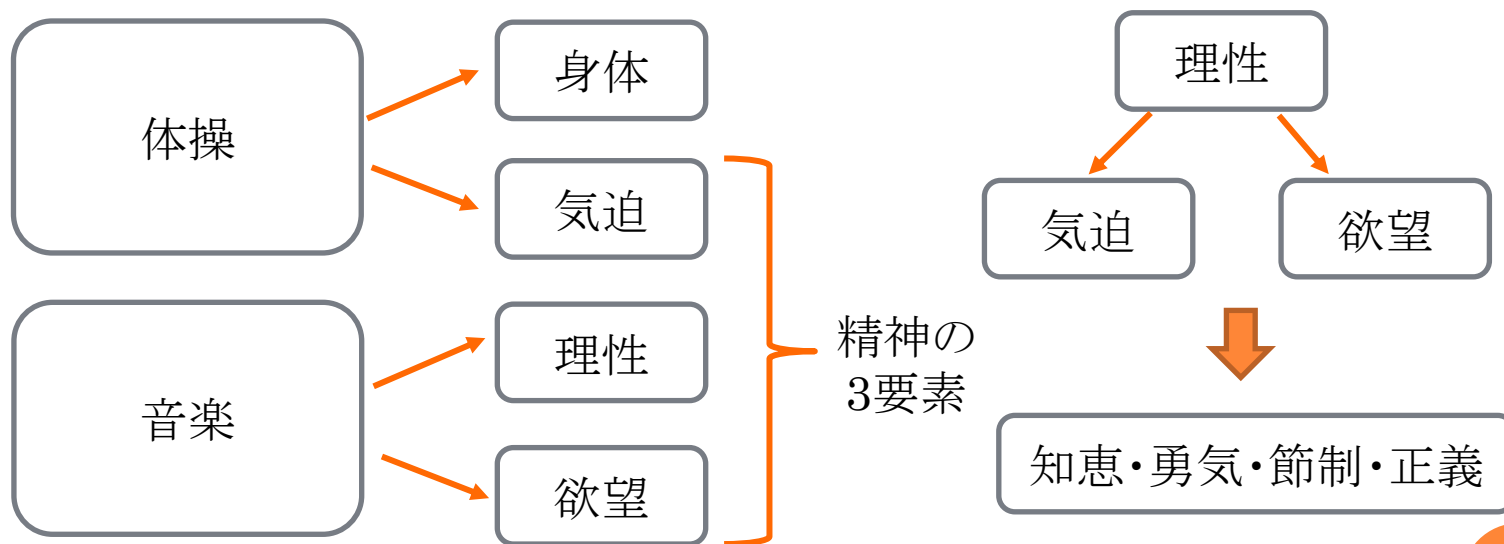
*「愛(エロス)」と教育



(2) アテネの教育思想

○ プラトン

① 心身諸能力の調和的完成



(2) アテネの教育思想

○ プラトン

② 「個人」と「国家」の統一

【国家＝正義】

哲人＝知恵

軍人＝名誉(勇気)

生産者＝利殖(節制)



(2) アテネの教育思想

○ アリストテレス

自由教育 (プラトンのアカデメイア)

* アカデミー (「学問の自由」の起源)

教育 = 自由民 (エリート) の養成

→ 「学問のための学問」 (≠ 実用的学問)



指導者として必要な価値決定能力

(3) 古代ローマの教育

○ 前期

実用的学問の重視

→ 戦闘訓練・耕作・労働に関する知識や技術の重視



(3) 古代ローマの教育

- 後期

ギリシヤ的自由教育

→ 教養としての教育

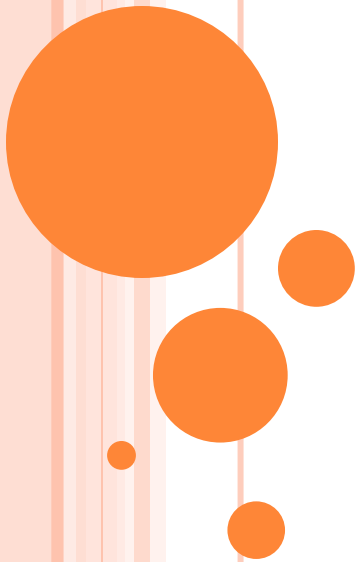


(4) 古代ギリシヤ・ローマと現代

- 現代との思想的共通項
 - ・スパルタ的教育
 - 教育による心身の鍛錬
 - ・自由教育
 - 教養としての教育、学問の自由
 - ・実用的教育
 - 教育による有用な知識や技術の伝達
- 現代との違い
 - ・「子ども」と「大人」の明確な区別の有無



中世ヨーロッパからルネサンス

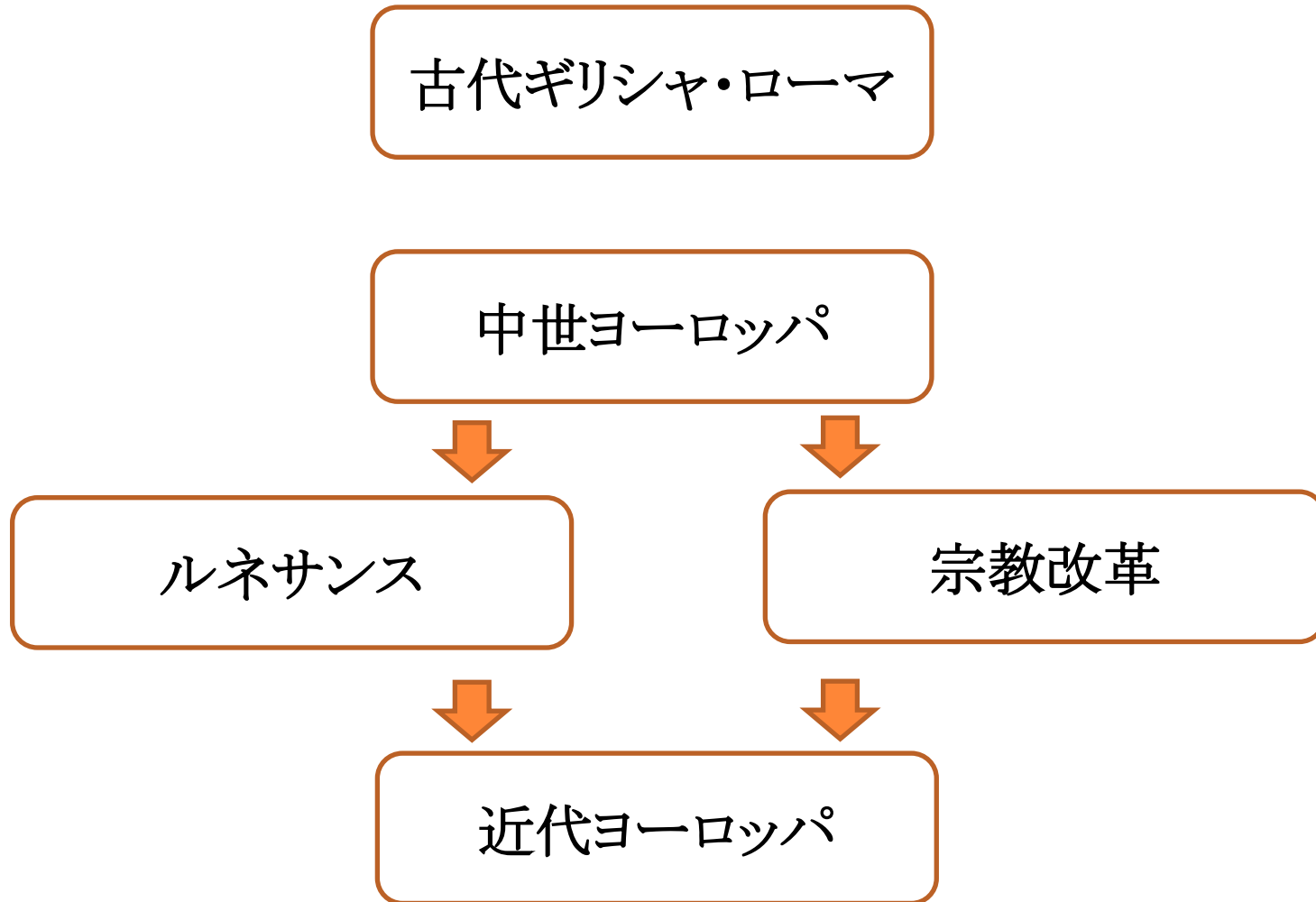


講義の目的

- 中世ヨーロッパからルネサンスへの時代の流れと、教育思想の特徴を理解する。
- 「小さな大人」(中世)から「子どもの発見」(近代)という世界史における子ども観の変化を理解する。



* 大まかな時代の流れ

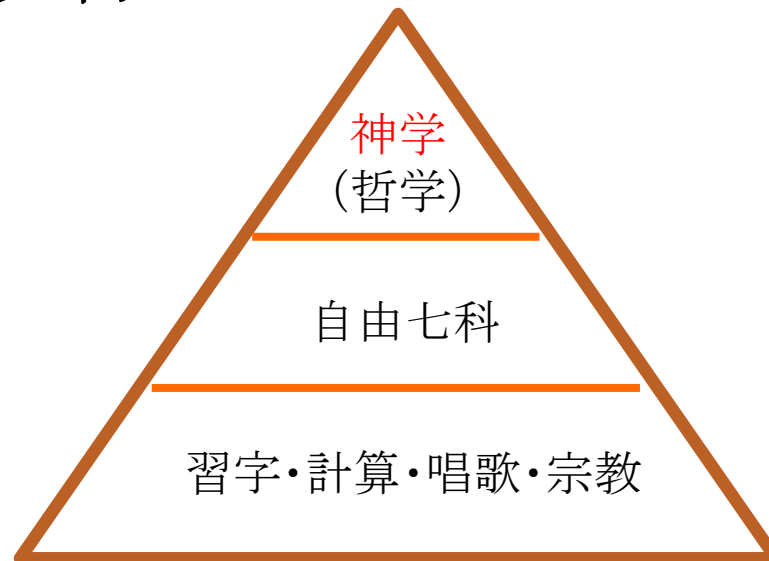


(1) 中世ヨーロッパの教育

○ 中世の教育

→ 教会による教会のための教育

○ 僧侶の教育



(1) 中世ヨーロッパの教育

○ 騎士の教育

騎士道＝騎士の七芸

→ 協同心、忠誠心、名誉心の養成

○ 民衆の教育

・都市学校＝世俗的・実際的教育

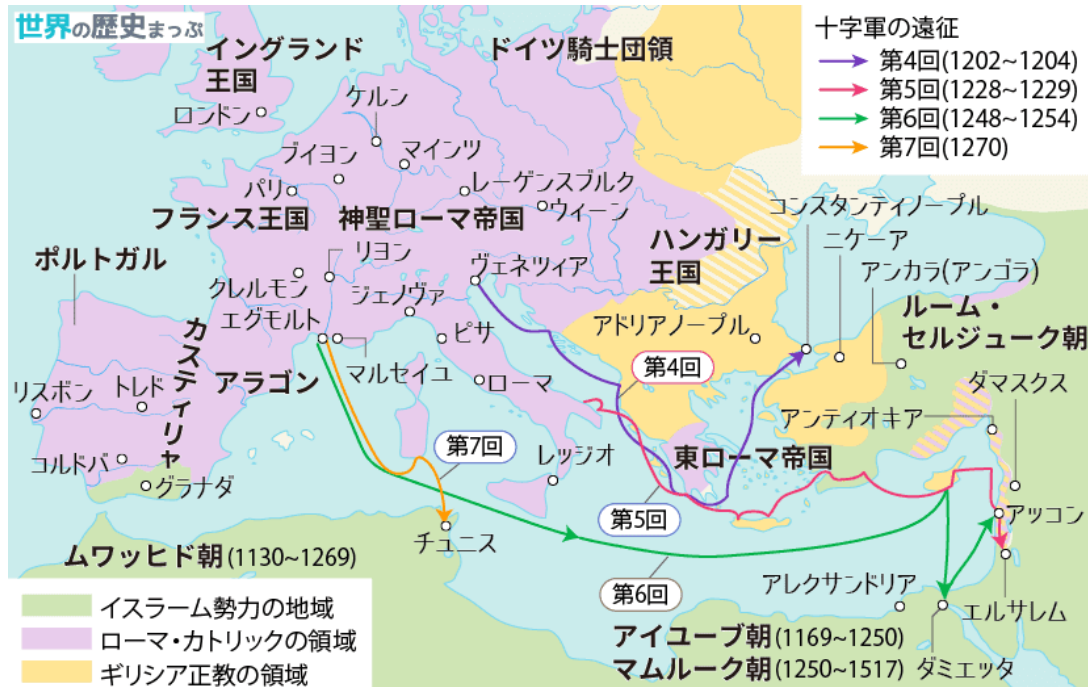
・ギルド＝徒弟的職業訓練教育



(1) 中世ヨーロッパの教育

○ 大学

十字軍の遠征→新しい知識への興味
大学の誕生(自由な教育へ)



(2) ルネサンスの教育

* ルネサンス(14～16世紀:文芸復興)

古代ギリシャへの回帰

→「神」を中心とした世界観から「人間」
中心の世界観へ



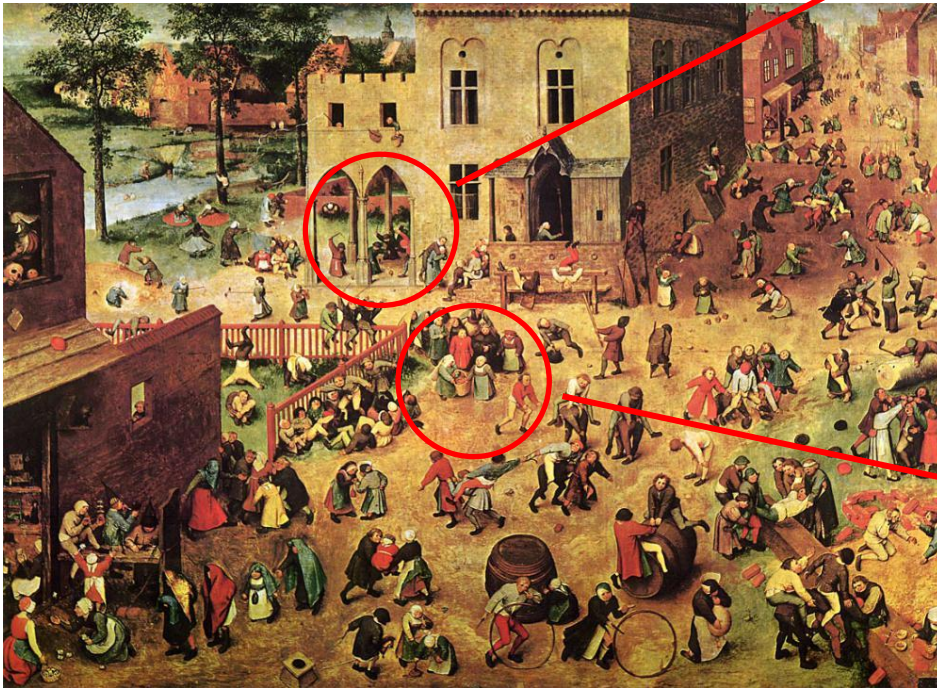
* 絵画に見る子ども観 (小さな大人から子どもへ)
聖母子像 (中世)



「聖母子像」(ラファエロ)



「子供の遊戯」(ブリュッゲル)



(2) ルネサンスの教育

- ルネサンスの教育 = 人間性の解放
→ 「教会のための教育」から「個人のための教育」へ

【特徴】

- ・ 人文主義 (ヒューマニズム)
古代ギリシャ・ローマの教育をモデル
(「個人」の人格の調和的發展を目的とする)
- ・ 中等エリート教育の發展
古典 (教養教育) + 騎士教育



*ヨーロッパの中等エリート教育



(3) 宗教改革と教育

宗教改革(1517年):カトリック教会への反発



(3) 宗教改革(1517年)と教育

- 宗教改革の教育目的

→ 個人が聖書を理解して、生活を見直す



義務教育(万民の教育)



(4) コメニウス(1592～1670年)

- 近代教育学の父
 - ・教育の科学化
 - 「家庭教師」から大衆教育へ
 - ・国民教育
 - 「すべての人にすべてのことを教える」
- 幼児教育論
 - ・感覚を通じた教育(世界図絵)
 - ・母親学校(1～6歳)



* 世界図絵



まとめ

【中世～近世】

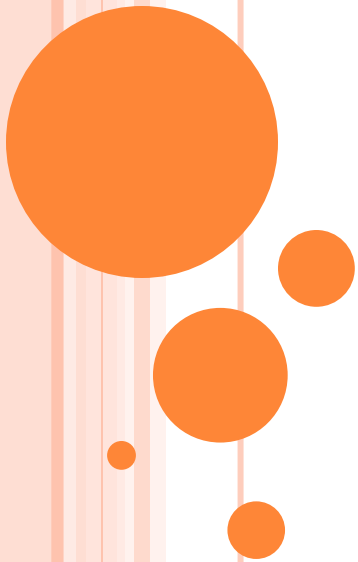
- 徐々に大人と違った存在である「子ども」が認識され始める。
→子どもらしい「姿」、「服装」、「行動」...
(貴族→中間階層)

【近代以降】

- 「学校」(教育制度)の発展
- 「身分制度」の廃止
→「学校」や「家庭」に守られる存在としての「子ども」
人間全体の成長過程としての「子ども期」



コメニウスからロック、ルソーへ



講義の目的

- 「子どもの発見」という考え方の転換について、コメニウス、ロック、ルソーの保育・教育思想の中から理解する。



「子どもの発見」

(中世)

「原罪的こども観」(小さな大人)

- ・禁欲主義的教育観、早い段階からの大人の仲間入り



(近代)

「子ども(期)の発見」

- ・「純粹さ」など、大人とは異なる存在としての「子ども」
子ども観 ⇔ 近代的家族制度(意識)、近代的学校教育

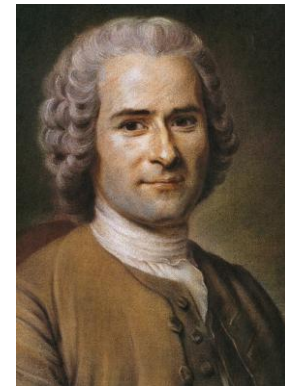


* 大まかな時代の流れ

中世ヨーロッパ



近代ヨーロッパ



(1) コメニウス(1592～1670年)

○近代教育学の父

- ・教育の「科学化」

→家庭教師から一般大衆教育へ
国民教育

(すべての人にすべてのことを教える)



(1) コメニウス(1592～1670年)

○保育論

- ・感覚器官を通じた教育

→「世界図絵」

- ・母親学級(1～6歳)

→母親の膝の上での教育

(自然学、天文学...)



* 世界図絵



「陶工はろくろの前にこしをかけ、¹陶土から²つぼ、³水さし、
⁴三脚のかめ、⁵深皿、⁶陶製のなべ、⁷タイル、⁸ふたなどを形づくりします。
その後⁹かまの中で焼きかため、うわをかけます。
こわれたつぼは¹⁰かけらを坐じます。



(2) ロック(1632～1704年)

ジェントルマン教育

→「体・徳・知」を兼備した人間

○教育論

体育：健全な肉体と精神の形成

徳育：欲求をコントロールできる人間

知育：知識の習得を目指した人格形成



精神白紙説



(3) ルソー (1712~1778年)

「自然に還れ」

→ 人間の内なる自然の重視



DOUGLAS & SHERWOOD'S CELEBRATED TOURNURE CORSET.

(Front view.)

(Patented January 4, 1859.)



* 宮廷社会の「不自然な」スタイル

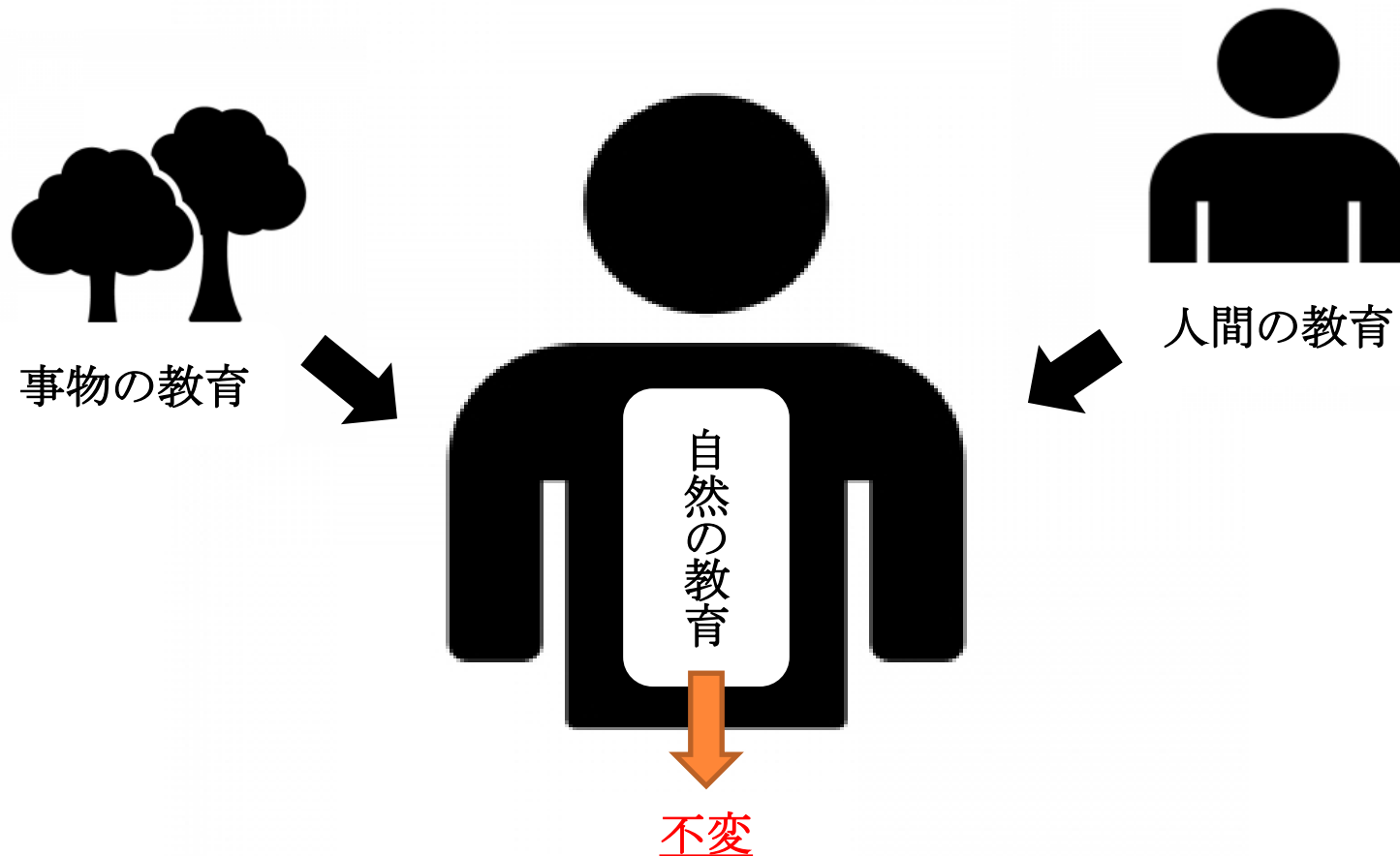


* 宮廷社会の「不自然な」スタイル



(3) ルソー (1712~1778年)

① 内部的発達



(3) ルソー (1712～1778年)

②「人間」の教育

→社会・国家・階級(貧富)・職業を超えた共通の「人間」の育成



(3) ルソー(1712~1778年)

③「発達段階」への着目

「子どもの発見」=子どもの善性への信頼



子ども時代(感覚の時代)

消極教育

→子どもの興味関心、自己活動の重視



(3) ルソー (1712～1778年)

③「発達段階」への着目

青年期 (理性の時代)

積極教育

→ 理性に基づいた人間、歴史などの探求



まとめ

- コメニウス、ロック、ルソー
→ヨーロッパの近代的な教育・保育思想の土台を築く

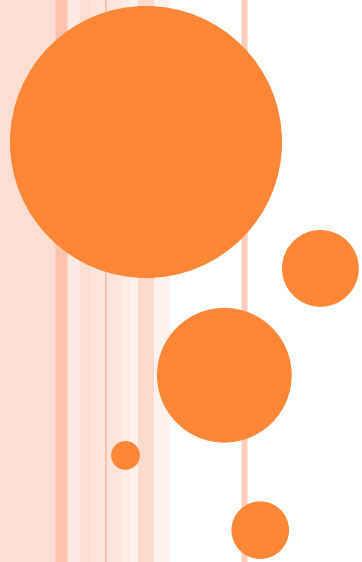
【次回以降】

- 近代以降に彼らの思想がどのように受け継がれ、発展していくかを理解する。



近代の保育思想

～ペスタロッチ・オーベルラン・
オウエン・フレーベル～

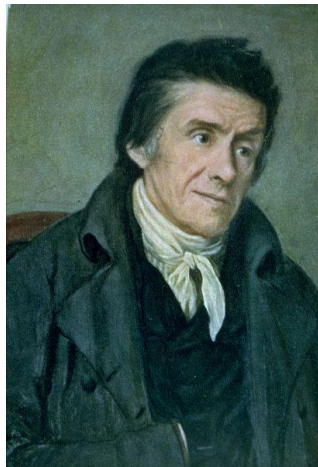


講義の目的

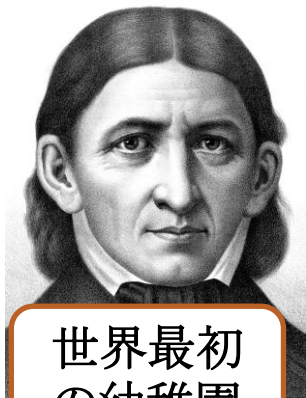
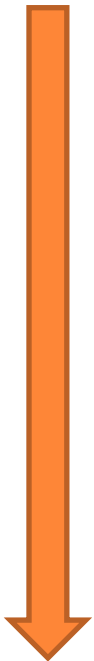
- 近代の保育・教育思想の展開を理解する。



* 大まかな時代の流れ



近代ヨーロッパ



世界最初の幼稚園



保育所の原型

現代



(1) ペスタロッチ (1746～1827年)

○「貧しい子ども」への教育

①内部的発達への着目

観察に基づいた教授法の開発
(ルソーからの影響)

②調和的発達の重視

知的・身体的・道徳的発達

→労働・技術の教育的価値づけ

(古代ギリシャやロックの思想との違い)



(1) ペスタロッチ (1746～1827年)

③母性と家庭の重視

人間的教養の源泉としての母子関係

④社会変革のための教育

人間性の重視 (貧困や戦争のない社会)



(2) 保育所の原型

- 資本主義社会のはじまり
 - ・ 家とは別の場所(工場)で働く人々の増加
 - ・ 長時間労働
- 放任された貧困家庭の子ども増加



(2) 保育所の原型

○ オーベルラン(1740～1826年)

- ・子ども達の保護施設の設立



宗教・道徳教育の実施(聖書、賛美歌)

知育(正しい言葉遣い、色彩感覚の訓練)

職業教育(編み物など)



(2) 保育所の原型

- オウエン(1771～1858年)
 - ・ 労働者階級の子ども達の保護
- 「性格形成学院」



衣食住の保障

心身の健康な発達の促進

合理的な考えや行動の育成



ダンス
基礎学習
生産労働

(3) フレーベル(1782～1852年)

○幼稚園の創始者

①子ども「神性」への信頼

教育＝子ども「神性」の開発



ルター、ペスタロッチの影響



(3) フレーベル(1782～1852年)

②「遊び」の重視

「遊び」=子ども達の発達(神性)の促進



恩物(神から与えられもの)の開発



*「恩物」の使い方、遊び方



乳児向けのあそび

見える、見えない

○準備 まり(はもつき・糸) 人数分

ことばかけ

プーン プーン
赤いまりが見えるかな？

あら、赤いまりが見えなくなりました。
どこへ行ったのかな？

ヒラヒラ ヒフヒフ
赤いまりが出てきました。

赤いまりが見えるかな？

まりを自分の後ろへ置いてみましょう。

まりは見えなくなりました。

動き (●保育者 ○子ども)
がっこ内は、ぬい

●左右にひもつきのまりを大きく揺らす。

●後ろに隠す。
○探そうとする。

●まりをこまかく上下に揺らす。

●一人ひとりの前にまりを1つずつ配る。
(ある)
○後ろに隠す

(ぬい)



このようなあそびを繰り返すことによって「見える、見えない」「ある、ない」「ない、あった」を感じとり、注意して見ることを覚え、存在や所有の有無に気づくようになる。

母親が「いない、いない、パー」であそぶことも同じ意味がある。

クルクル、ココロ

○準備 まり(はもなし 色は自由) 人数分

ことばかけ

ギョツ ギョツ ギョツ ギョツ

クルクル クルクル

ココロ ココロ

動き (●保育者 ○子ども)
がっこ内は、ぬい

○おにぎりを作る

○てまりやちまの立ておだんごを作る。

○まりを動かす。

上記のあそびをうたいながらまりを動かしてあそぶ。
(歌詞もメロディーも自由)

発展例

次のようにうたいながら製作をしてもよい。

《例》 ♪ お池のカエルが ビョン ビョン
お散歩します ビョン ビョン ビョン

まおせ まおせ クルクルまおせ
クルクルまわって まあるくなあれ

ういでヒラヒラ したでヒラヒラ
ちょうちんが飛ぶよ ヒラヒラヒラ

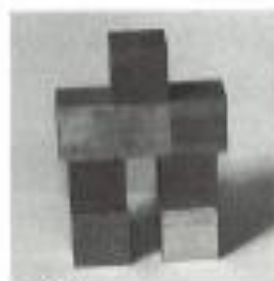
ユラユラ だんだん たかくなあれ
ユラユラ だんだん ひくくなあれ

生活の形式

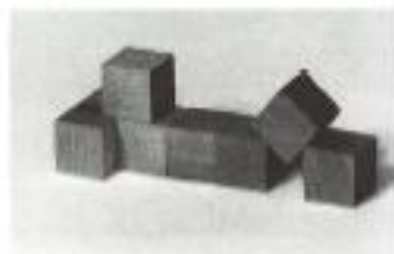
—— それぞれのイメージで作ってあそび ——



エサを食べる犬



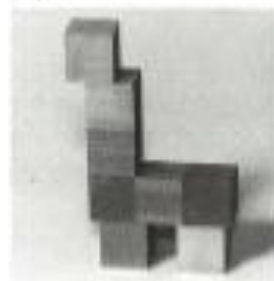
ロケット



犬



カメ



キリン

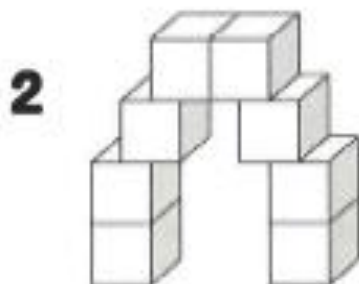


ロケット

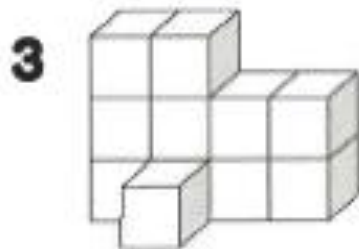
—— お話を作りながら組み立てるあそび ——



今日は、みんなそろって遠足です。
電車に乗って行きましょう。



動物園に着きました。
入場券をくぐって中に入りましょう。

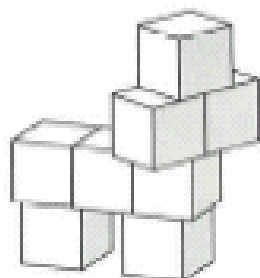


みんなで記念写真を撮りましょう。
にっこり笑って「ハイ、ポーズ」



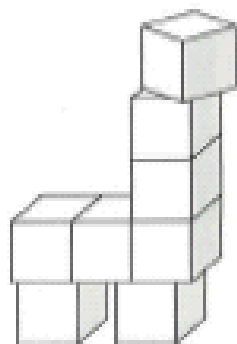
これはお馬さんです。
とっても速く走れそうな足ですね。

5



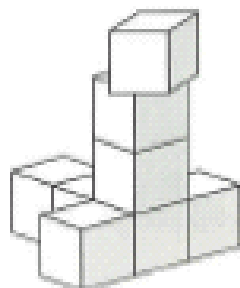
さて、彼は強そうなライオンさん。
動物の王様かしら。

6



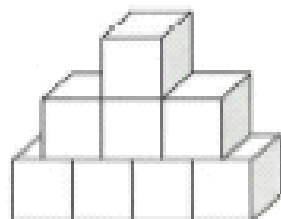
今度はキリンさん。
首が長いから遠くまで見えるのね。

7



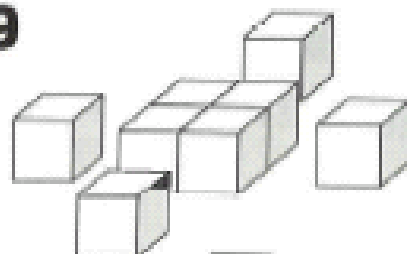
さあー、アザラシくんです。
ボールあそびがとても上手なのよ。

8



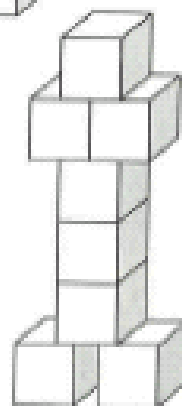
ここは、ある山です。
あるのボスは、どこにいるのかしら。

9



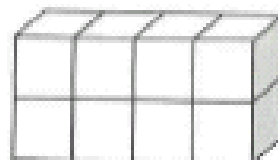
そろそろお昼ですね。
お弁当を食べましょう。
いずとテーブルもありますよ。

10



展望台に見てみましょう。
なにが見えるかしら。

11



そろそろ帰りましょう。
帰りは2階建てスに乗りましょう。

お話を作りながら組み立てていくには、いろいろな方法が考えられる。

- ・子ども自らがお話を作りながら組み立てていく。
- ・友だちや親や保育者と一緒にお話を作り、それぞれのイメージで組み立てていく。
- ・親や保育者などがお話を作り、子ども一人ひとりのイメージで組み立てていく。

美の形式

横模様



(左右対称)

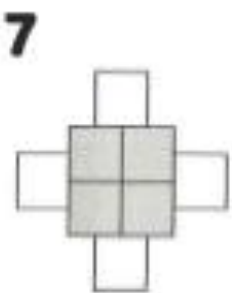
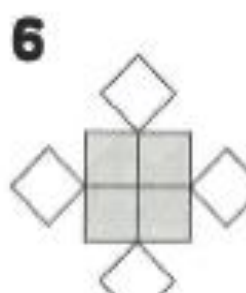
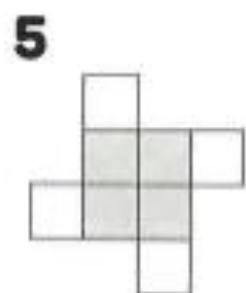
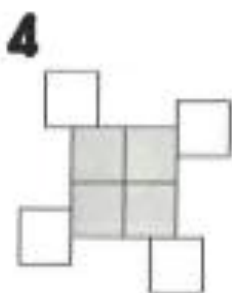
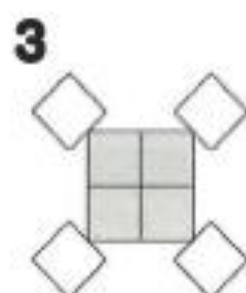
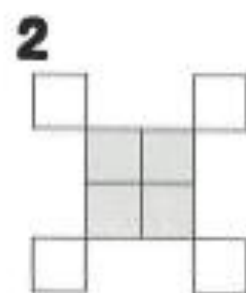
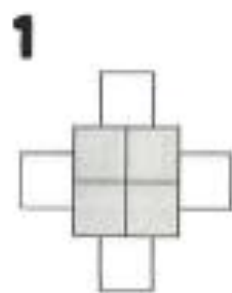
(リズムがある)



中心のある模様

1. 中心を動かさずにできるもの

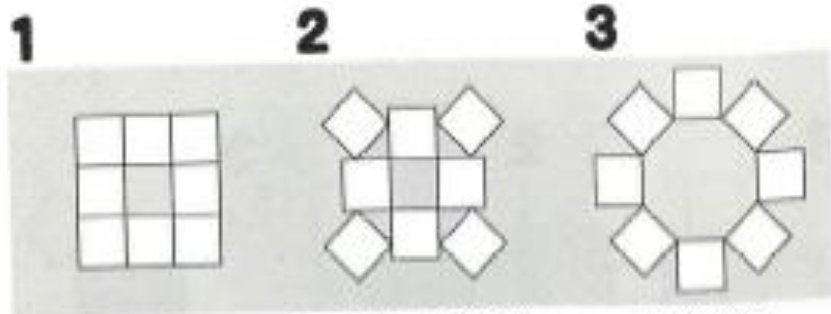
4個の立方体を中心に固定してできるもの



・中心を動かさずに、まわりの積木を動かすことによって形が変化していくことを楽しむ。

2. 中心を動かすもの

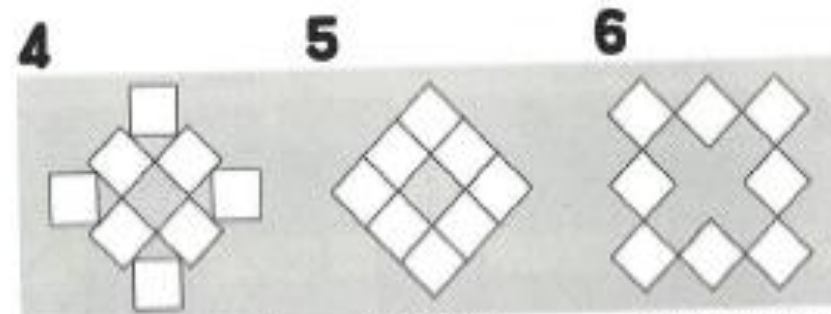
4個の立方体を同時に移動させて模様を作る



基本形

四隅の立方体をそれぞれ
90°回転させる

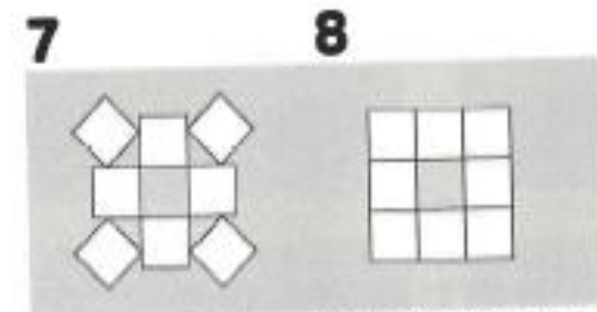
中央の4個を
外側に平行に引き出す



90°回転させた立方体4個を
内側に入れる

外側の立方体を
90°回転させる

四隅の立方体を基点に
四隅の頂点どうしをつなぐ



基点にした立方体を
90°回転させる

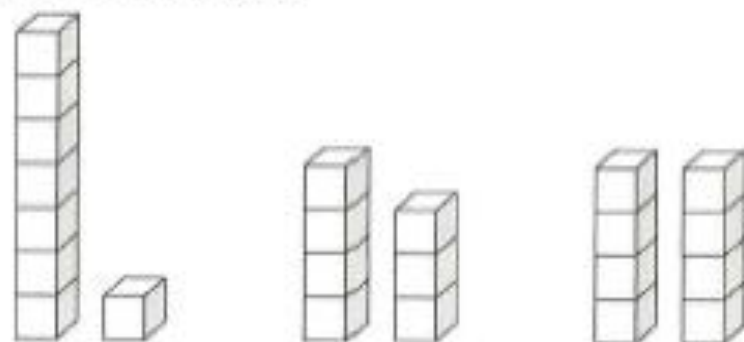
四隅の立方体を90°回転させ
元の形に戻る

認識の形式

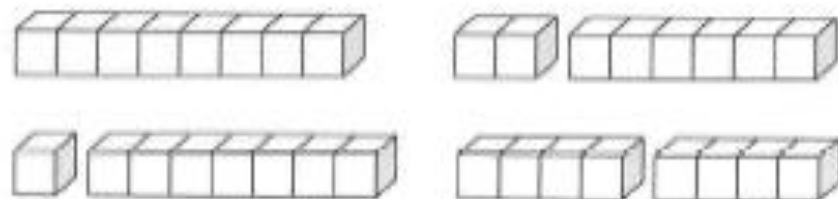
—— 比べてあそぶ ——



1 高さ「どちらが高いかな」



2 長さ「どちらが長いかな」





第4恩物

第4恩物は、6cm、3cm、1.5cmの3辺を持つ8個の直方体で構成されている。これは第2恩物の一辺6cmの立方体を、縦に2等分し、高さを4等分したものである。

直方体の大きさは、第3恩物の3cmの立方体の2倍の長さ、半分の高さである。

この恩物は、8個の直方体を合わせて第3恩物と同じ大きさの立方体となる。このことから、同じ立方体であっても、切り方の違いによって、全く異なる形が作り出さ

れることが分かる。これは、次に続く立方体の分解を理解するためのひとつの段階となっている。

第4恩物は、3種の異なる面と辺を持つ直方体なので第3恩物よりもずっと複雑で、しかも空間のある建築を作ることができる。さらに、3種の面の比較など数理的なあそびができ、第3恩物と合わせて16個であそぶこともできる。

ポイント

- ・直方体（3つの異なる面）を知る。
- ・立体的なものを作ってあそぶ。
 - ・数直感を養う。
 - ・美的感覚を磨かせる。

生活の形式

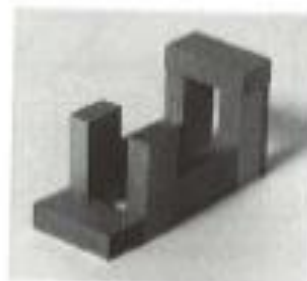
それぞれのイメージで作ってあそぶ



いすとテーブル



つば

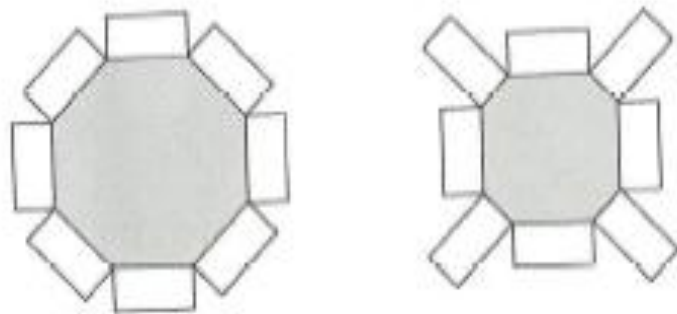
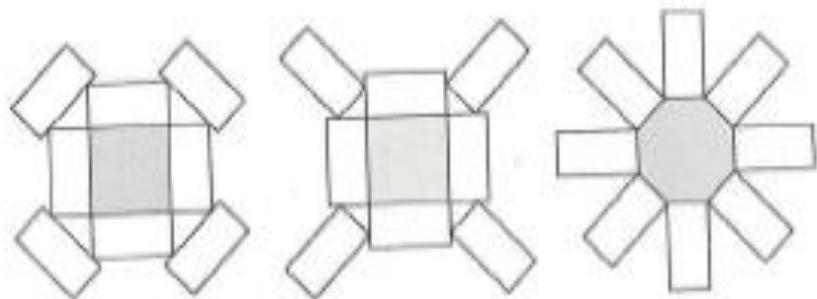
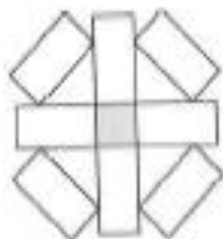
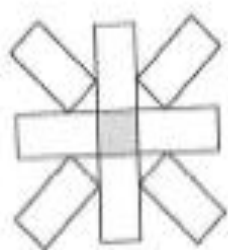


ロボット



美の形式

—— 中心のある模様 ——

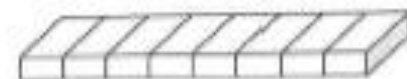
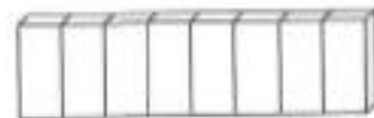


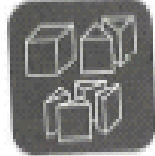
認識の形式

—— 比べてあそぶ ——



1 長さ「どちらが長いかな」



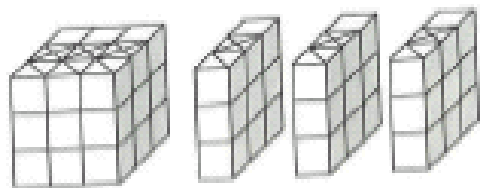


第5恩物

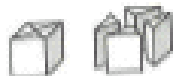
第5恩物は、一辺が3cm立方体を分解してできた27個の立方体、6個の大三角柱、12個の小三角柱で構成されている。

周知、9cmの立方体の横、横、高さをそれぞれ3等分し、3cmの立方体を27個作り、その3個を対角線に3等分して大三角柱6個を、さらに3個を対角線に4等分して、小三角柱12個を作ったのである。

このように第5恩物は「3」という各数



大三角柱

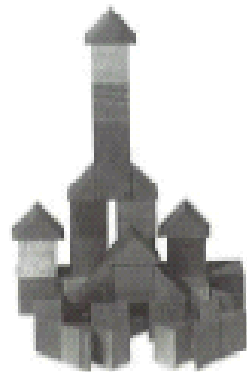


小三角柱

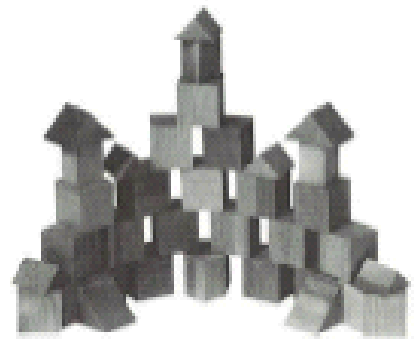


- ・立体的なものを作ってあそぶ。
- ・三角柱（5面体）を知る。
- ・数理的能力を助長する。
- ・台形、菱形、平行四辺形などを作る。
- ・美的感覚を豊かにする。

それぞれのイメージで作ってあそぶ



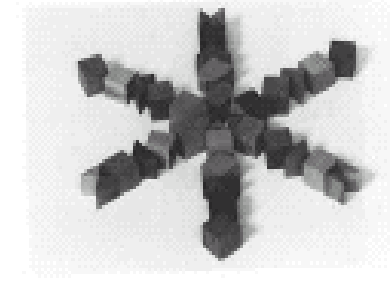
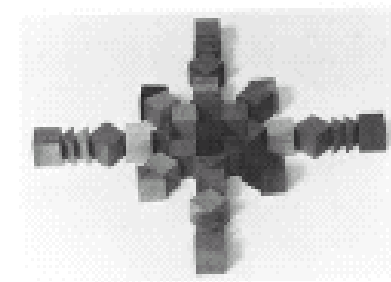
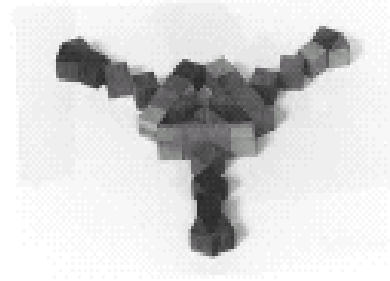
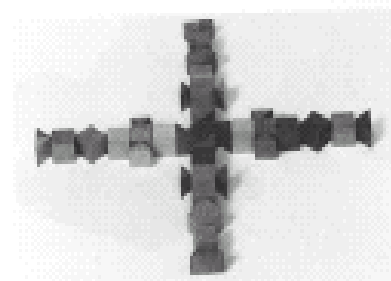
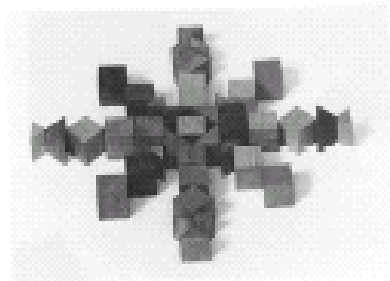
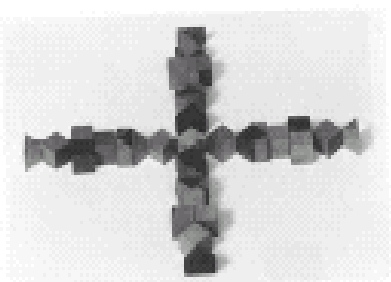
お城



タワー



—— 中心のある模様 ——

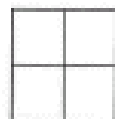


1 正方形を作る (上から見た形)

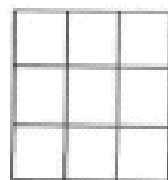
立方体



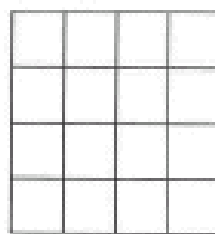
1個



4個



9個



16個

小三角柱



2個



4個

大三角柱



2個

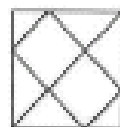


4個

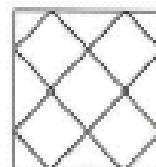
3種類混合



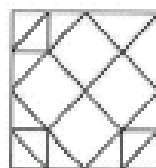
立方体1個
小三角柱4個



立方体2個
大三角柱4個
小三角柱2個



立方体5個
大三角柱4個
小三角柱4個



立方体4個
大三角柱2個
小三角柱12個

それぞれのイメージで作ってあそぶ



しお



ロボット



とろ



ロボット



おうち



ロケット



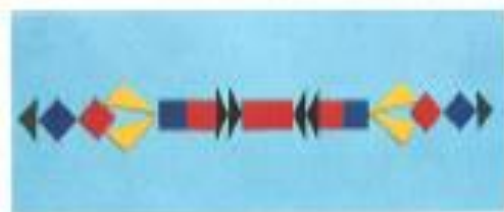
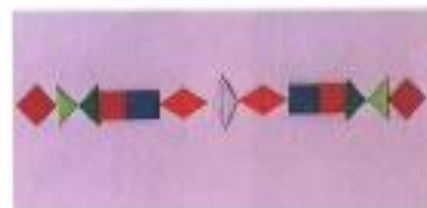
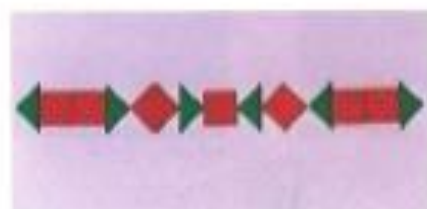
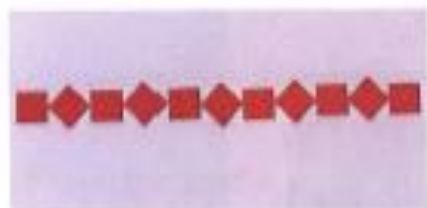
花と船



朝顔花

美の形式

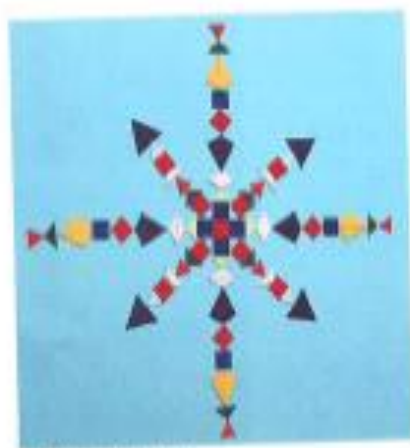
連続模



中心のある模様



●中心は、正方形1枚



●中心は、正方形1枚



●中心は、正方形1枚



●中心は、正方形4枚

中心のある模様の作り方

1



中心になる形を書く。

●中心になる形は自由であるが、1枚で中心にできるものは正方形・正三角形である。

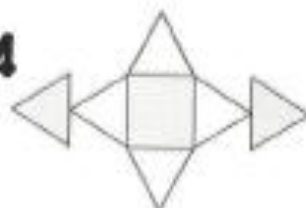
2

次に置く形を両手に1枚ずつ持ち
右・左に同時に置く。

3

右手・左手に1枚ずつ持ち
真こうと手前に同時に置く。

4



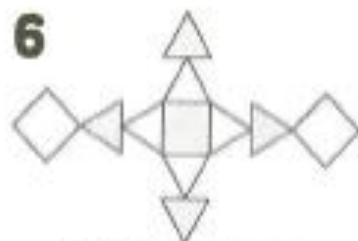
2と同じ変形で置く。

5



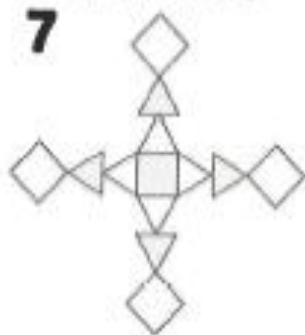
3と同じ変形で置く。

6



以下は同じ変形で置いていく。

7





第8 恩物

第8恩物は「線」を示す道具であり、直線を扱う。

直線は無限であるが、長さを3、6、9、12、15cmの5種類の線分とした。この線分を表すものとして、ここでは、「箸」を用いている。それぞれの長さは、第8恩物の立方体の1辺をもとにして、3cmの2倍、3

倍、4倍、5倍と規則正しく変化している。直線とは、同じ平面上にある2点を結ぶ最短距離である。また2直線が交われば角

ができ、3本以上の線で囲めば面ができる。

この恩物は、5種類の長さの箸を用いて、実物を輪郭で表したり、美しい模様を作ったりあそぶことができる。

ポイント

- ・長い、短いを知る。
- ・直線で描いてあそぶ。
- ・線による美しい模様をつくる。
- ・線で囲むと面ができることを知る。
- ・物の輪郭を認識する。

留意点

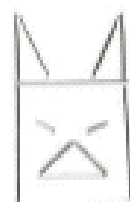
- ・数に制限はない。
- ・子どもには箸の長さを言う必要はない。
- ・同じ長さの箸をつなげて使わない。
- ・数を数めて平面化したり、重ねたりすることは避ける。

生活の形式

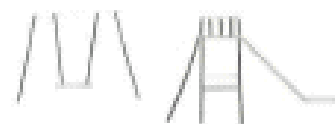
それぞれのイメージで作ってあそぶ



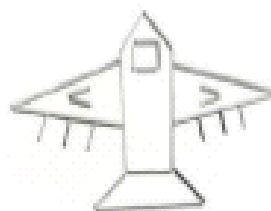
おうち



オニ



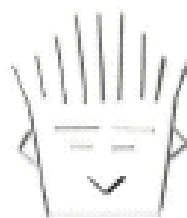
ブランコとスベリ台



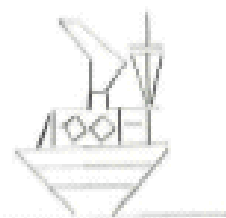
飛行機



おつね



顔



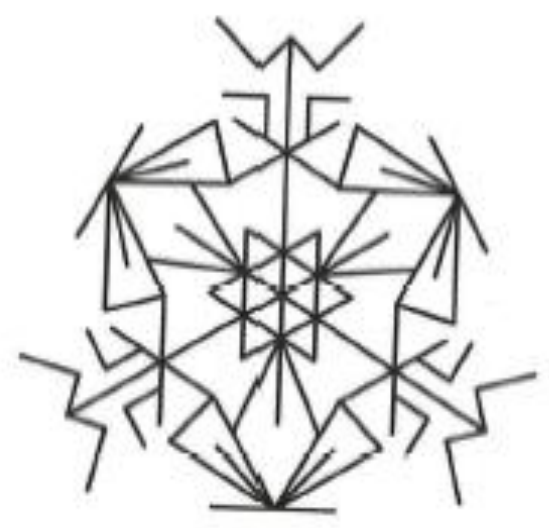
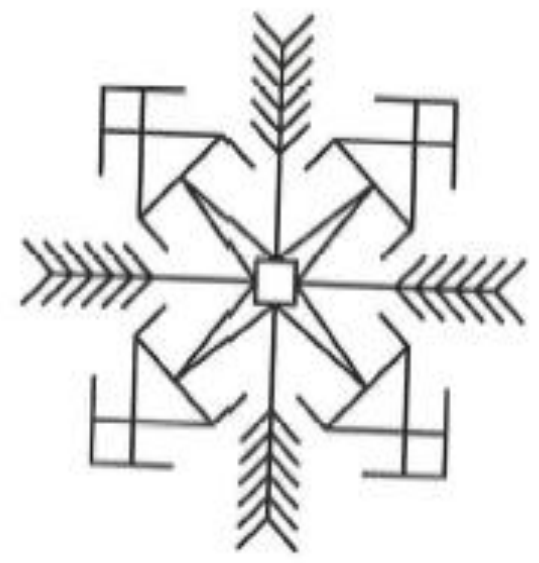
船

美の形式

—— 横模様 ——



—— 中心のある模様 ——



生活の形式

—それぞれのイメージで作ってあそぶ—



花



ちょうちんと花



花



ちょうちん



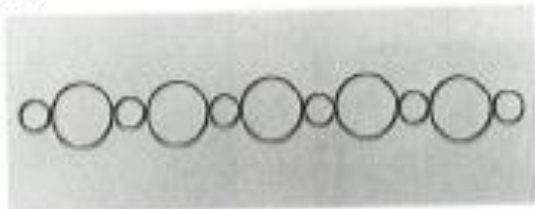
ちょうちん



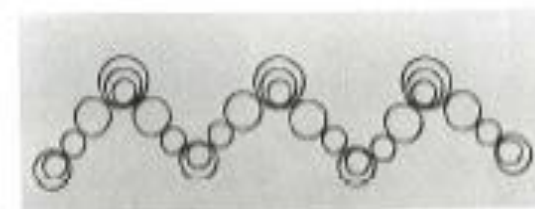
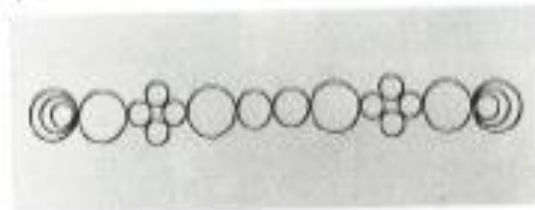
美的形式

模模樣

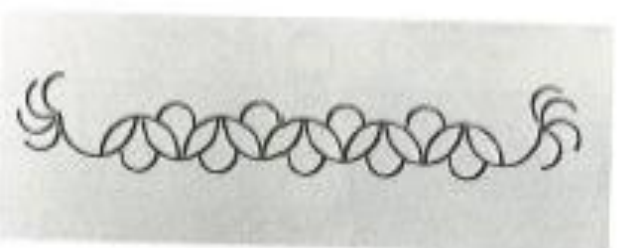
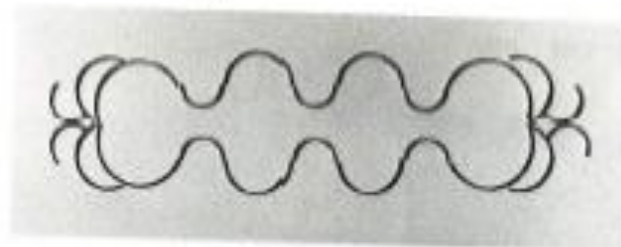
1 大環・小環



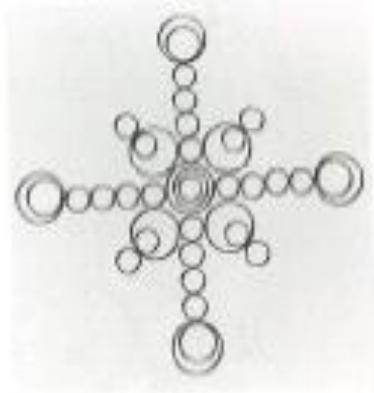
2 大環・中環・小環



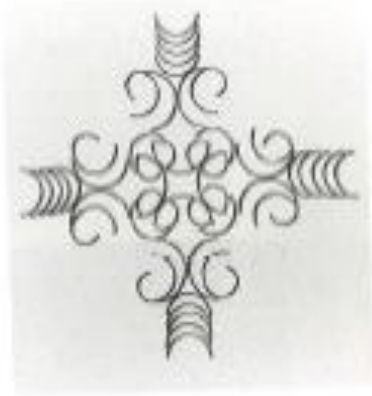
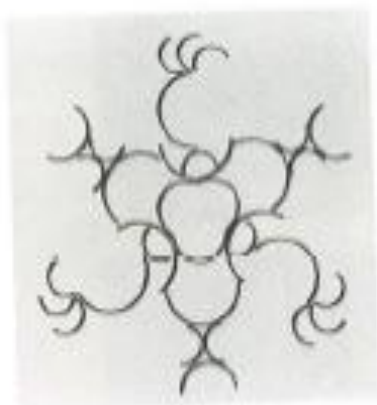
3 大半環・中半環・小半環



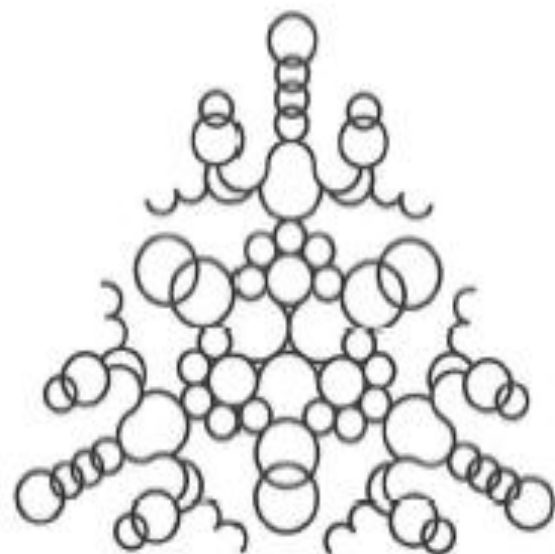
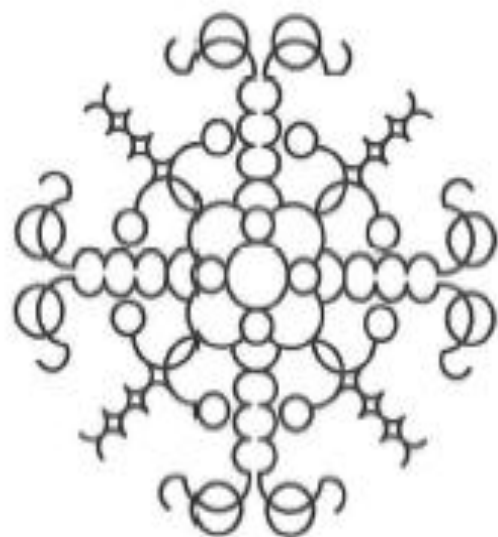
1 大環・中環・小環



2 大半環・中半環・小半環



3 全種類を使った中心のある模様



生活の形式

——それぞれのイメージで作ってあそぶ——



0235



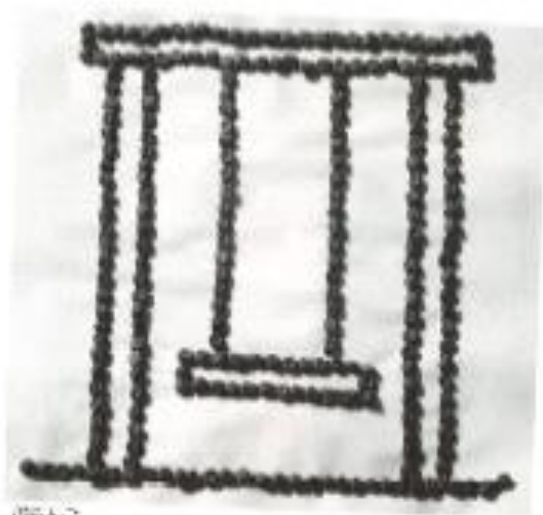
白鳥



0236



0237



0238



バナナ



目



りんご



鳥の足



熊の顔



チューリップ



くま



うさぎ



UFO



お花

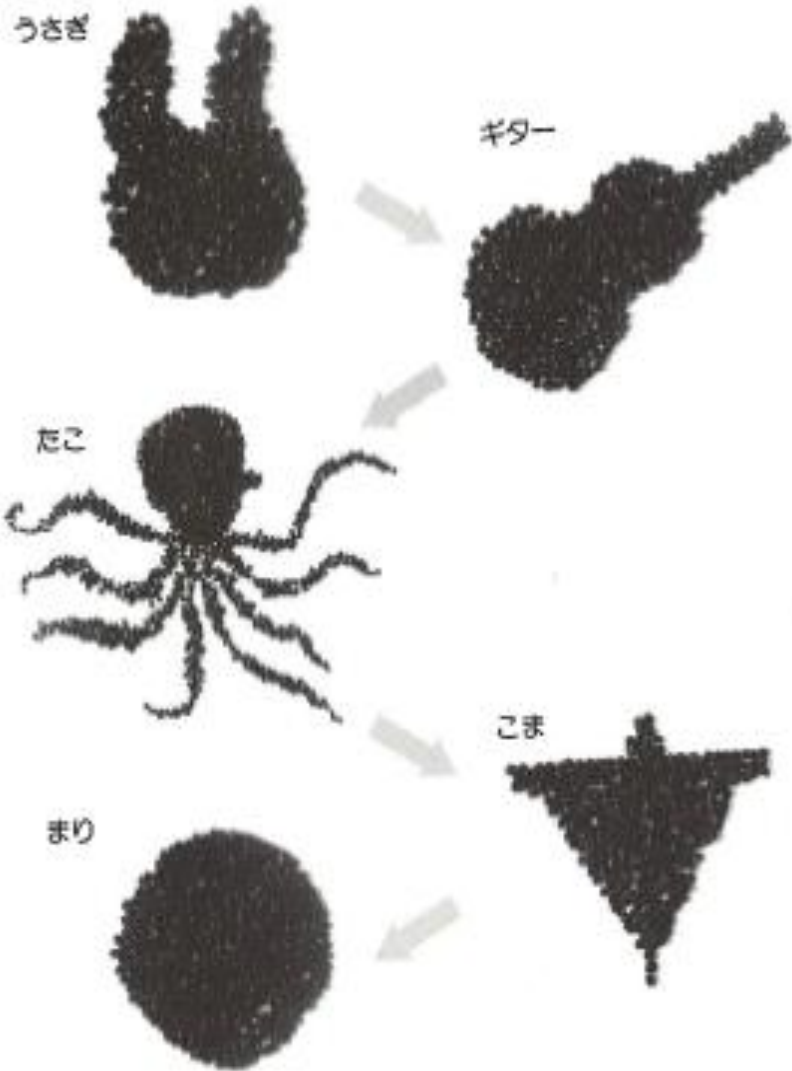


お魚



ドーナツ

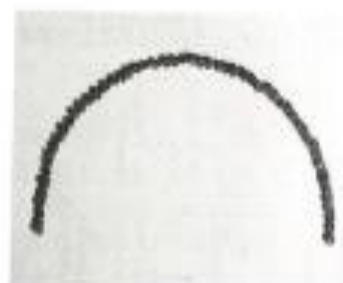
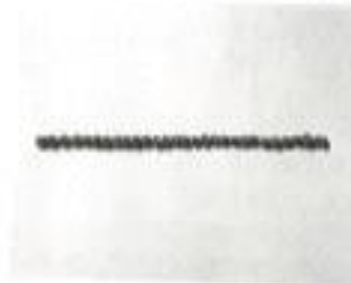
—— お話や、しりとりをしながら作る ——



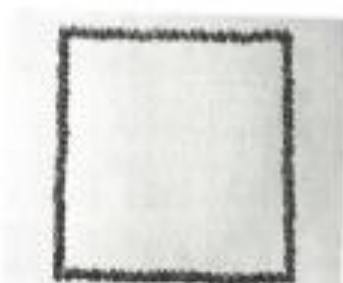
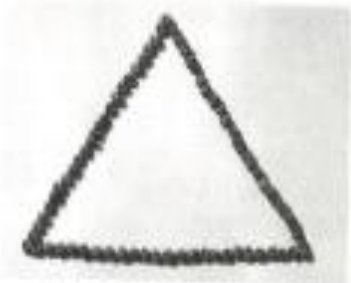
*豆、小石、糖や砂糖に足の自然物や、おはじき、ボタンなどでも代用できます。

認識の形式

1 線 点と点をつなげると線ができる。



2 輪郭 3点以上をつなげて囲めば輪が見える。



3 面 点によって囲まれた中をうめると面ができる。



まとめ

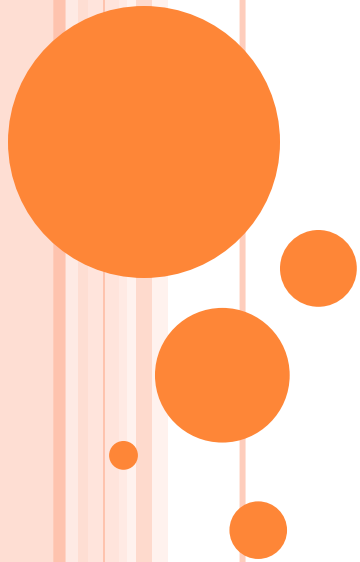
- 近代ヨーロッパ
→ 保育の思想と制度の形成期

【次回以降】

- 現代の保育思想にどのように受け継がれ、発展していくかを理解する。



現代の保育思想 ～エレン・ケイ、デューイ、 モンテッソーリ～



講義の目的

- 現代(20世紀以降)の保育・教育思想の展開を理解する。
- 保育思想の歴史で学んだことについてのレポートの書き方や考え方を理解する。



* 大まかな時代の流れ



現代(20世紀)



新教育運動
(児童中心主義)



現在(21世紀)



(1) エレン・ケイ(1849～1926年)

①子どもの権利

- ・「悪い子」であることの権利
- ・大人からの抑圧の否定

②母性の復権

- ・家庭の教育力＝母性
- ・子どもの権利の保障＝母性の保護



(2) デューイ(1859～1952年)

○ 児童中心主義(新教育)の提唱者

① 成長の最大限の尊重

未成熟＝未知の可能性

→ 大人が教育の目的を決めてはならない。

(教育の目的は、子どもの「内側」にある)



(2) デューイ(1859～1952年)

②子どもの興味関心、自発性の重視

「なすことによって学ぶ」

→自ら考え、問題解決していく過程の重視
(生活と学校の融合)



現在の「課題解決型学習(PBL)」へ



(2) デューイ(1859～1952年)

③ 子どもの経験と民主主義

変化の激しい社会

→ (子ども) 様々な「経験」をする。

個人の自由なコミュニケーションと伝達



(学校)「経験」の理解、再構成をうながす



(子ども) 社会の改善に参加できる人間へ

(3) モンテッソーリ(1870～1952年)

○障がい児教育および幼児教育の実践者

①「遊び」の重視

子どもにとっての「遊び」=学習・仕事



子どもの知的・身体的発達の促進



(3) モンテッソーリ(1870～1952年)

②「感覚」を通じた遊具の開発

敏感期

ある一定の期間、

環境の中の特定の要素に対して、

子どもがもつ特別に敏感な感受性のこと



視覚・触覚など感覚を利用した教材の開発



* モンテッソーリ教具



まとめ(西洋保育思想史を学ぶ意義)

- 「歴史(過去)」を「現在」にどのように活かすか？

→「過去」=(集合的な意味での)「無意識」

例)子どもとは、どういう存在か？

保育は、どうあるべきか？



「歴史(過去)」を学ぶ=過去を意識化すること



何を残して、何を**変えるべきか**をより自由に選択できる

